

取組内容の進捗状況(平成27年度)

■ 共通の成果指標と達成目標

国際化関連

○ Global Interdisciplinary Courses(GIC)本格運用開始

全学部・研究科共通外国語プログラム(GIC)が平成28年度より本格稼働しました。平成28年5月1日現在で、GICセンター設置のコア科目75科目に対して履修者は延べ1,162名、学部や国際センター設置のリサーチ科目を含めると、471科目延べ8,337名の学生がGIC科目を履修しています。これに秋学期入学者が加わり更に履修者数は増える見込です。GIC科目は主に英語で行われており、全学的に英語のみで卒業できるコースを展開するためのプラットフォームとして機能します。

○ 国際学生寮の整備

これまで段階的に国際学生寮を整備してきましたが、平成28年3月には、留学生用に「慶應義塾大学大倉山ドミトリー」を開設しました。平成29年3月には、慶應義塾大学では初めての試みとなる混住ユニット形式の国際学生寮「慶應義塾大学日吉国際学生寮(仮称)」の新設が決定しています。更に「Tsunashima サスティナブル・スマートタウン(所在地:神奈川県横浜市)」内に混住型国際学生寮を平成30年3月開設を目指しています。



〈日吉国際学生寮(仮称)完成予想図〉

○ 海外協定校の拡充

交換留学・共同研究等海外の協定校は、全学・部局間協定を含め平成26年度は261校でしたが平成28年5月1日現在その数は310校と着実に開拓が進んでおり、今後も一層の充実をはかる予定です。中でも全学レベルの交換留学協定については、交流学生数(交換留学生の派遣・受入)の増加を目指し、質の高い協定校の新規開拓を行ってきました。協定を締結する大学は、それぞれ当該大学所在国においてトップレベルの大学に限定し、双方の交流の可能性を確認した上で協定の締結を行っているため、増分の数は必ずしも多くありませんが、着実に交流数の増加に結びついています。また、既存の協定校とも、双方向にニーズがあるところは、交換人数を増やす交渉を行っており、今後も留学生数の増加が期待されます。

ガバナンス改革関連

○ 中期計画の策定

これまで中長期計画として「基本方針と大綱」を掲げ、それに基づく個別方針を短期計画として策定してきましたが、本事業の採択を受け、実施期間最終年の平成35年度におけるあるべき姿を「慶應義塾のヴィジョン」として明確化すると共に、平成35年までを三期に区切り、平成27年度はその第一期中期計画を策定し公表しました。第一期中期計画では、慶應義塾スーパーグローバル事業の推進にあたり、まず「広報」、「国際化」、「人事」を特に重点課題領域として取り出しています。同事業の核である「長寿」「安全」「創造」の3つのクラスターによる高度で学際的・国際的な教育・研究の成果を広く世界に発信する基盤を再構築するために、積極的情報発信を今まで以上に強化していきます。

教育改革関連

○ 短期留学プログラムの開発

留学生を増やすため取組として短期プログラムの開発を進めています。平成27年度には、大学院生向けのプログラム「Thesis@Keio」を開始しました。このプログラムに申請し受入が許可された学生は、自身の修士・博士論文の研究テーマについて学内で研究活動(義塾の教員による研究指導を受けること、資料収集、フィールドワーク、インタビュー等)を行うことができます。学生は、慶應義塾の教員による研究指導を受け自身の研究を高められると同時に、慶應義塾にとっても、各国の優秀な大学院生や若手研究者が集まり、国際的にアカデミックなネットワークを構築できるというメリットがあります。この他平成28年度夏以降に学部・研究科主催の多くのプログラムも企画しています。



〈Keio Short-Term Japanese Studies Program〉

○ PEARL募集開始

経済学部で、英語だけで学位取得が可能なコースProgramme in Economics for Alliances, Research and Leadership(PEARL)の募集を開始しました。国内外から、さまざまなバックグラウンドの受験生が多数出願してきています。今後最終的な入学手続を経て、入学者が確定します。

■ 大学独自の成果指標と達成目標

○ 海外研究連携拠点の拡充

世界を先導する研究成果が今まで以上に生まれやすい環境をつくり、国際共同研究を推進し、併せて海外共著論文の増加や海外でのレピュテーションの向上にも結び付けるために、海外研究拠点と連携を強化しています。平成26年度の4拠点から、平成28年5月現在16拠点まで増強しました。今後も海外研究連携拠点の拡充をはかりつつ、各拠点とは人材の流動化を活性化し共同研究を進めることで、世界レベルの研究成果を創出していきます。

【海外の大学との連携の実績(連携拠点一覧平成28年5月1日現在)】

Australia	University of New South Wales	Singapore	Keio – Nus CUTE Center
Australia	University of Sydney	Switzerland	The European Organization for Nuclear Research
Austria	University of Vienna The Faculty of Historical and Cultural Studies	USA	National Institute on Aging Intramural Research Program
Austria	University of Vienna The Faculty of Psychology	USA	Broad Institute of MIT and Harvard
France	The Centre National de la Recherche Scientifique	USA	Georgia Institute of Technology
France	Commissariat à l'énergie atomique et aux énergies Alternatives	USA	University of California, Berkeley Precision Manufacturing Center in the Department of Mechanical Engineering
France	The ITER International Fusion Energy Organization		
India	Indian Institute of Technology Hyderabad		
Korea	Yonsei University Center for Information Technology and Governance	USA	Washington University in St. Louis School of Medicine

○ 海外副指導教授制本格運用開始

クロス・アポイントメント制度によって海外の教員を博士課程学生の副指導教授として受入れる制度を整備し、平成27年度から本格的に運用を開始しました。その結果平成27年度は、計60名の海外副指導教授招聘することができました。昨年度に引き続き受入教員、招聘教員、学生いずれも非常に高い満足が得られており、共同論文や共同研究の成果も出始めています。将来のサイテーション・レピュテーションの向上につながるべく高く期待されます。



〈海外副指導教授による学生指導〉

■ 国際的評価の向上につながる取組

○ 研究情報発信の強化

慶應義塾の研究業績を広く社会に公表するために、Elsevier社の研究者情報システム「Pure」の運用を11月より開始しました。世界最大級の抄録・引用文献データベース「Scopus」に収録された慶應義塾大学所属専任教員の研究業績が「Pure」により公開されます。慶應義塾の研究活動や業績を広く公開することにより、他の機関、特に海外の大学等に所属する研究者との共同研究の促進につながります。

■ 自由記述欄

○ KEIO AGEING WEEK

10月4日(日)から9日(金)を“KEIO AGEING WEEK”と位置づけ、世界経済フォーラム(WEF)、世界保健機関(WHO)、大阪大学等と連携・協力し、健康に年を重ねる(Ageing)ことのできる社会、つまり長寿社会の課題解決に関連する一連の国際会議、講演会等を開催しました。慶應義塾大学の強みである「長寿」の分野において、世界トップレベルの研究者を招き、さまざまな課題を論議する貴重な機会となりました。慶應義塾大学は、今回得られた最新の知見もふまえ、長寿社会の課題解決に向けて、さらなる学際的・国際的研究を進めていきます。



〈世界経済フォーラム共催国際会議「認知症社会における経済的挑戦と機会」〉